Global Insurance Topics Vol.32 (2015.1.15)

- 中国自動車強制保険開放後の外資系損害保険会社の動向 -

Sompo Japan Nipponkoa

１．はじめに

2013 年の中国損害保険市場は引き続き高成長を遂げ、保険料収入[1]は対前年比 16.5%増の 6,212.3 億元（約 9.8 兆円[2])となった。中でも、保険料収入の 4 分の 3 を占める自動車保険が対前年比 17.9%増の 4,720.8 億元(約 7.4 兆円)と市場をけん引している。一方、自動車保険の引受損益は 2012 年から悪化し、2013 年は中国系大手 3 社[3]を除く会社がすべて赤字となり[4]、中国系大手 3 社も利益を減少させた[5]。

中国の自動車保険も強制保険[6]（以下、「交強険」という)と任意保険の 2 階建となっており、2012 年 5 月に、従来認められていなかった交強険の取扱が外資系損害保険会社に開放されることになった。2012 年に当研究所では、この外資系損害保険会社への交強険開放の動きや、米国系損害保険会社である Liberty 社と AIG 社[7]の中国事業の取組状況を紹介したが[8]、本稿では、交強険開放後の外資系損害保険会社の状況と上記 2 社の取組動向を紹介する。

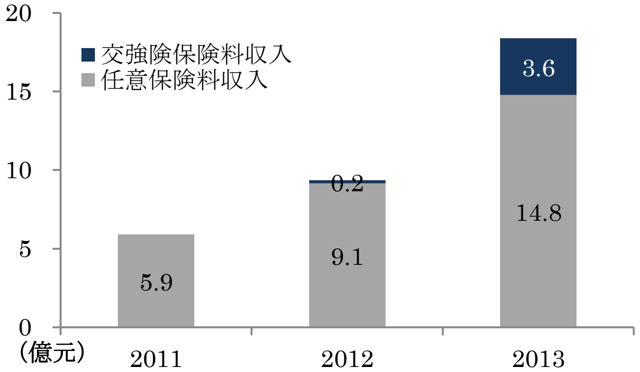
２．外資系損害保険会社の自動車保険引受実績

2013 年末時点で、外資系損害保険会社 21 社のうち 9 社[9](欧米、韓国、台湾勢)が交強険の取扱認可と商品販売認可[10]を取得し、交強険の販売を始めた[11]。

交強険取扱外資系 9 社の 2013 年の自動車保険料収入[12]は、《図表 1》のとおり、18.4 億元(約 290.0 億円。うち交強険が 3.6 億元、約 56.7 億円)と、2012 年より 96.5%伸び、2011 年の約 3 倍に成長した。

この 9 社の 2013 年の任意保険料収入は対前年比 63%増の 14.8 億元(約 233.2 億円)であるのに対し、日系 3 社は同 24%増の約 5.7 億元(約 89.8 億円)となっており[13]、交強険の引受が任意保険料収入の伸長に大きく貢献していると考えられる。

《図表1》交強険取扱外資系9社の自動車保険引受実績推移



(出典)各社のディスクロージャーにより当研究所作成

保険料収入の伸び率は高いものの、自動車保険料収入全体に占める 9 社の割合は前年とほぼ横ばいの約 0.4%と、低い水準にとどまっている。また、引受損益においては、2013 年は 9 社とも赤字で、合計で約 7.3 億元(約 115.0 億円。うち交強険が 1.7 億元、約 26.8 億円)の引受損失を計上した。

３．Liberty 社

Liberty 社は、2006 年から中国系損害保険会社と業務提携し、自動車保険の販売と保険金支払を共同で行っている[14]。以前から自動車保険の引受体制が整っていたため、同社は交強険販売認可を取得した最初の外資系損害保険会社となった。同社は重慶市、北京市、浙江省、広東省、山東省の 5 地区で自動車保険の販売を展開しており、中国系損害保険会社と同じく、直販以外に、自動車販売会社などの代理店チャネルも構築している。

Liberty 社の任意保険は 2006 年の販売開始以来順調に伸長しており、2007 年には、同社の最大取扱種目となり、2008 年以降、外資系損害保険会社における自動車保険料収入第 1 位となっている。交強険の取扱に伴い、自動車保険料収入の全体の保険料収入に占める割合は、2011 年の 79.8%から 2013 年には 89.8%にまで拡大し、圧倒的なウェイトを占める取扱種目となっている。

同社の自動車保険料収入は《図表 2》のとおり、交強険開放前の 2011 年の 4.1 億元(約 64.6 億円)から、2013 年には 7.6 億元(約 119.8 億円)と約 84.1%伸長した。一方で引受損失も大幅に拡大し、2013 年には、2.3 億元弱(約 36.2 億円。うち交強険が 0.47 億元、約 7.4 億円)の赤字を計上した。事業の急速な伸長、引受損失拡大により、2008 年から 2013 年までの間に、同社は 10 回にわたって、約 9.3 億元(約 146.6 億円)の増資を行っている[15]。

《図表2》Liberty 社直近3年間の自動車保険の引受状況

単位:万元	2011年	2012年	2013年
保険料収入総額(対前年増率)	51,742 (35.6%)	71,557 (38.3%)	84,701 (18.4%)
自動車保険料収入(対前年増率)	41,302 (35.2%)	58,905 (42.6%)	76,026 (29.1%)
うち:交強険	0	1,688	10,849
自動車保険の割合	79.8%	82.3%	89.8%
自動車保険の引受損益	▲9,024	▲13,026	▲22,988

(出典)Liberty 社ディスクロージャー

4．AIG 社

AIG 社は、中国初の外資系損害保険会社として、傷害保険、責任保険、企業財産保険などの企業向け商品を中心に販売しており、元受保険料収入では、長年外資系損害保険会社の第 1 位の座にあった[16]。過去、同社は中国系損害保険会社と提携して任意保険を販売していたが、うまく行かずに、自動車保険事業から撤退していた[17]。同社は交強険開放を機に、自動車保険への再参入を決定し、開放の 2 ヵ月後(2012 年 7 月)に、交強険の取扱認可を取得した後、引受体制を整え、2013 年 4 月に商品販売認可を取得し、自動車保険事業を再開した。Liberty 社が先行して交強険を含む自動車保険を展開していることに対して、同社の鄭艺(ZHENG ERIC YI)氏[18]は、「AIG 社は着実に展開していくという理念を持って、海外の安全運転教育および自動車保険を含むすべての個人商品・サービスを中国市場へ導入しようとしている」とした[19]。

2013 年の同社の自動車保険料収入は 53.65 万元（約 846 万円。うち交強険が 12 万元、約 189 万円）と、保険料収入全体の 0.05%にとどまっている。また、Liberty 社とは異なり、AIG 社の自動車保険料収入は、すべて直販によるものである[20]。販売地区について、同社は「(まずは上海市と広東省で展開し、)適切なタイミングで他の地域へ展開する」としており[21]、自動車保険を急速に拡大しているわけではない。一方、2013 年の引受損失は 5,502 万元(約 8.7 億円。うち交強険が 898 万元、約 1.4 億円)に達した。その原因は、システム、人員の整備など初期コストが大きかったことが考えられる。

5．外資系損害保険会社の新たな動き

自動車保険市場が深刻な赤字の状況であるにもかかわらず、外資系損害保険会社は積極的に進出している。安盛保険(AXA)[22]は、2014 年 1 月に中国系の天平汽車保険会社[23]を買収・合併し、安盛天平(AXATP)[24]として、自動車保険市場に参入した[25]。また、日系損害保険会社 3 社[26]は、2014 年 4 月から 5 月にかけて交強険の取扱認可を取得し、11 月には損保ジャパン日本興亜社と東京海上日動社が商品販売認可を取得した。

6．おわりに

交強険開放に伴い、2013 年の交強険の取扱保険会社は 50 社[27]に達し、競争が激化している。外資系損害保険会社は、営業拠点[28]・販売チャネルが少なく、知名度も不足しているため、短期的に自動車保険や、損害保険市場でのシェアを拡大することは難しいと考えられる。一方、中国の自動車保険市場全体の収支は厳しい状況にあり、特に、交強険は、2006 年の制度発足以来、赤字が続き、2011 年にはピークの 112 億元(約 1,765.1 億円)の引受損失を計上した。その後改善しつつあるものの、2013 年も 43 億元(約 677.7 億円)の引受損失となっている。交強険の累計引受損失は 425.4 億元(約 6,704.3 億円)、資産運用利益を加味しても累計損失は 238.1 億元(約 3,752.5 億円)に達している。厳しい市場環境に加え、システム・人員の整備、代理店チャネルの開拓などの初期コストも大きいことから、外資系損害保険会社は、しばらく赤字が続くとみている。

【研究員　朱　潔】

1 医療保険・傷害保険料収入は含んでいない。
2 1 人民元＝15.76 円（2013 年平均)。本稿ではすべてこのレートで円換算している。
3 中国人民財産保険股份有限公司（PICC P&C 社)、中国平安財産保険股份有限公司（PingAn P&C 社)、中国太平洋財産保険股份有限公司（CPIC Property 社）
4 任意保険のみを取扱っている東京海上日動火災保険（中国）有限公司(Tokio Marine Nichido 社)および三井住友海上火災保険（中国）有限公司(Mitsui Sumitomo 社)の引受損益は不明。
5 2013 年 PICC P&C 社、PingAn P&C 社、CPIC Property 社の引受利益は、前年比、それぞれ 32.0%、45.5%、90.5%減少した。
6 中国では、任意保険は外資系保険会社による取扱が認められていたが、日本の自賠責にあたる自動車交通事故責任強制保険(交強険)は、2012 年 5 月 1 日から外資系保険会社による取扱が認められた。
7 注 8 のレポートでは、Chartis 社として紹介したが、2012 年 11 月に AIG 本社は損害保険事業のブランドを Chartis からまた AIG に戻した。
8 総研トピックス Vol.11「中国の外資損害保険会社の動向」(2012.6.29) http://www.sj-ri.co.jp/issue/topics/data/t11.pdf
9 9 社（商品販売認可取得日）：利宝保険有限公司・Liberty 社(2012.9.5) 、富邦財産保険有限公司・Fubon 社(2012.10.30)、中航安盟財産保険有限公司・Groupama Avic 社(2012.11.22)、国泰財産保険有限責任公司・Cathay 社(2012.12.31)、美亜財産保険有限公司・AIG 社(2013.4.3)、三星財産保険（中国）有限公司・Samsung 社(2013.4.22)、安聯財産保険（中国）有限公司・Allianz 社(2013.5.15)、中意財産保険有限公司・Generali 社(2013.7.25) 、現代財産保険(中国)有限公司・Hyundai 社(2013.9.14)。
10 中国では、強制保険（交強険）の販売には、交強険の取扱に向けた「経営範囲変更認可（取扱認可)」を取得した後、システムの整備、自動車保険の経営計画、交強険の単独決算、準備金評価・報告制度などの条件を充足し、商品販売の認可を取得することが必要となる。
11 交強険の販売認可を取得する前から、AIG 社を除いた 8 社は、任意保険の引受実績があった。
12 個社の自動車保険料の収入は、各社のディスクロージャーから取得した数字であるため、受再を含む会社がある。
13 2013 年の日系 3 社の自動車保険料収入(受再を含む)は、東京海上日動火災保険（中国）有限公司(Tokio Marine Nichido 社)545 万元、三井住友海上火災保険（中国）有限公司(Mitsui Sumitomo 社) 5.6 億元、日本財産保険（中国）有限公司(SJNK 社)493 万元。(2014 年中国保険年鑑の統計数字による)
14 注 8 に同じ。
15 Liberty 社のディスクロージャー(2013 年)
16 2012 年まで、元受保険料収入では、AIG 社が外資系損害保険会社の第 1 位であったが、2013 年に Groupama 社が AIG 社を抜き第 1 位になった。
17 中国保険年鑑によると、AIG 社の自動車保険料収入は 2008 年から減少し、2011 年以降は 0 となった。
18 2012 年当時は、AIG 上海支店の総経理（支店長に相当)、2013 年 8 月以降、AIG 社の総経理(社長に相当)。
19 「美亜帰隊：志在抢食車険市場 望年内推出交強険」陸家嘴 2012.12.10
20 AIG 社のディスクロージャー（2013 年）
21 「美亜交強険業務箭在弦上車険是必争之地」第一財経日報 2012.11.09
22 元「豊泰保険(亜洲)有限公司(Winterthur Swiss Insurance(Asia))上海分公司」は、2013 年 4 月に「安盛保険有限公司(安盛保険)」に変更した。(保監国際〔2013〕380 号)
23 天平汽車保険会社は 2004 年 12 月に設立した中国初の自動車保険専門会社である。
24 正式社名は「安盛天平財産保険股份有限公司」(外資系)である。
25 中国保険業協会が発表した 2014 年 1 月から 10 月までの会社別元受保険料収入によると、外資系損害保険会社 22 社（2014 年 8 月に、C.V.Starr が大衆保険会社を買収して、Starr 中国社を設立し、外資系損害保険会社は 1 社増加した）の中で、安盛天平が第 1 位である。
26 東京海上日動火災保険（中国）有限公司(Tokio Marine Nichido 社)、三井住友海上火災保険（中国）有限公司(Mitsui Sumitomo 社)および日本財産保険（中国）有限公司(SJNK 社)
27 2013 年交強険を取扱う保険会社は 50 社(中国系 41 社、外資系 9 社)で、前年より 8 社増加した。
28 外資系保険会社の販売拠点は少なく、2013 年の実績では国泰財産保険有限責任公司・Cathay 社(台湾)が一番多く 9 地区で交強険の販売を展開しているが、他はほとんど 3-5 拠点で展開している。